

「安倍一強政治」の現状と行方

時事通信社解説委員長
山田 恵資

- *「安倍一強」への要注意信号
- *今の安倍政権は野党共闘にプラス
- *忖度否定答弁の矛盾
- *思い通りに進まないレガシー
- *憲法改正案の迷走
- *2種類ある自民党保守
- *現実路線に不満募らせる保守
- *ひそかに小池に期待する安倍
- *自民党と公明党・創価学会の今後の関係
- *ポジショントークでは困る



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日はこの会では初めてですが、時事通信社の山田恵資さんに来ていただきました。上智大学を出られた後、時事通信社に入られ、主に政治を担当されてこられました。ワシントンに行かれたこともありますし、それから政治部長の後、現在、解説委員長をされておられます。小泉内閣のときも担当だったということでございます。私どもも政治の世界を幅広くしゃべっていただける方がだんだん少なくなってきました。心当たりを探してありますが、今日はびったりの方をお呼びできたと思います。

それでは山田さん、よろしくお願いたします。

山田 こんにちは。ご紹介いただきました時事通信の山田恵資と申します。たいへん歴史あ

る場所にお呼びいただき、光栄でございます。日ごろ政治を取材しており、いろいろなところで講演に呼んでいただきますが、私がいちばん心掛けているのは、政界で起きていることをなるべく直送というか、生の空気をお伝えしたいということです。

「安倍一強」への要注意信号

今政治のテーマは日替わりでどんどん変わっていくわけですが、最近の加計問題は、今年の1年が始まった段階では想定していなかった大きな出来事になりました。年明け、いろいろなところで政治の話を見せていただいたとき、どんな1年になるか、テーマで言えば小池ブーム、それから北朝鮮、トランプと、このあたりがキ